

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 22 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370004

研究課題名(和文)「現在の平面」 西田幾多郎における時間論と存在論

研究課題名(英文)The Surface of the Present - Ontology and Time in the Philosophy of Nishida Kitaro

研究代表者

FONGARO ENRICO (FONGARO, ENRICO)

東北大学・文学研究科・准教授

研究者番号：90457119

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、1)20世紀の「生の哲学」や現象学における時間論、存在論と対比させながら、西田独自の時間論の出現や変遷について明らかにする。2)一見異なるように見える西田の前期と後期における美学と、時間論の関係について論考することを試みる。3)上記2点のために不可欠な作業である、西田幾多郎の著作のイタリア語への翻訳および注釈を出版し、イタリアをはじめとしたヨーロッパに向けて研究成果を発信する。の3点を目的としている。そのため、西田の著作について、各時期で「時間」の概念がどのように記述されているかについて抜き出してまとめ、それと平行して、西田幾多郎全集イタリア語版の出版を順次行なった。

研究成果の概要(英文)：My research was characterized by the following three features: 1) I tried to clarify the appearance of and the changes in Nishida's theory of time by comparing it with 20th century "philosophy of life" and phenomenology. 2) I tried to evaluate the relation of Nishida's theory of time with his aesthetics, albeit the differences between the first and the late period of his philosophical production seem to be at first glance notable. 3) In order to realise the first two points, I did translations and annotations of some of Nishida's works in Italian and made efforts to make the results of my research known in Europe, in particular in Italy. In order to realise these purposes, I tried to summarize how Nishida deals with time in every period of his philosophy, and I started the publication of the first volumes of the Complete Works of Nishida Kitaro in Italian.

研究分野：哲学

キーワード：比較哲学 美学 西洋哲学

1 . 研究開始当初の背景

本課題では、西田幾多郎の著作において、「時間」がどのように捉えられているかを分析し、彼の存在論、美学を時間の面から論ずることを目的としている。研究代表者は、かつてハイデッガーの著作をイタリア語への翻訳を行なっていたが、この10年余りは、西田幾多郎全集のイタリア語翻訳に従事しており、その中から『善の研究』、『場所』、『取り残された意識の問題』等の、ヨーロッパにおいて紹介することが重要であると思われる著作について、イタリアの出版社から翻訳および解説を出版してきた。このような翻訳作業を通して、西田における「時間は実在の根本定式である」という彼の時間論の根本テーゼに接し、時間の問題が、ハイデッガーの Sein の思索と西田の Nichts の思索を深く切り結ぶ点であると考えてきた。

2014年、イタリア語訳がマルシーリオ社から刊行された『信濃哲学会のための講演』(拙訳)の中には、「すべて実在するものは時間的であり、時においてあると考へねばならない。」と述べられており、西田は自身の存在論を、この時代から明確に時間論へと結びつけ始めたと考えた。特に西田における美学の中では、時間の体験が重要な位置を占めていると考えられる。本研究課題においては、さらに時間と美が西田の中でどのように結び付けられているかについて考察する必要があると考えた。

2 . 研究の目的

本研究においては、西田幾多郎における「時間」の分析と解釈を行ない、同時に関連文献をイタリア語に翻訳する作業を行なう。このことにより、次のことを目的とする。

(1) 20世紀の「生の哲学」や現象学における時間論、存在論と対比させながら、西田独自の時間論の出現や変遷について明らかにする。

(2) 一見異なるように見える西田の前期と後期における美学と、時間論の関係について論考することを試みる。

(3) 上記2点を行なうために不可欠な作業である、西田幾多郎の著作のイタリア語への翻訳および注釈を順次を出版し、イタリアをはじめとしたヨーロッパに向けて研究成果を発信する。

3 . 研究の方法

20世紀の「生の哲学(Lebensphilosophie)」や現象学において、時間論は一つの大きなテーマである。ベルグソン、ハイデッガーはもちろん、ジンメル、フッサールなど多くの哲学者達がこの「時間」というテーマについて取り組んでいる。ベルグソンに大きく影響を

受けた若き西田は、このテーマから、自分の思想を発展させ、晩年まで問題意識を持ち続けたと考えられる。本研究では、西田のすべての時代における時間論を著作から丹念に取り出し、ベルグソン、アウグスティヌスや1920年代のハイデッガーらと比較する作業を積み重ねていく。さらに、イタリア、パドヴァ大学哲学部のスタッフらとも共同して、イタリアにおける20世紀の哲学や美学(ミケルシュテッター、クローチェ、アガンベン、パレイゾン等)とも比較していく。これらの作業の過程で適宜翻訳や論文をまとめて出版していく。これらの作業を通し、西田の哲学の背景には常に時間があることを示すことが目標である。

4 . 研究成果

研究期間を通して、目的の(1)および(2)のために、西田の著作について、各時期で「時間」の概念がどのように記述されているかについて抜き出し、まとめていく作業をおこなってきた。この作業に並行して、目的(3)のために、西田幾多郎全集イタリア語版の出版作業を引き続き行ってきた。初年度(平25年度)~2年目(平26年度)は、『信濃哲学会のための講演』のイタリア語を出版し、序文、解説などに論文を掲載した。2年目~最終年度(平27年度)には、京都の国際日本文化研究センターなどで、西田の時間論に関して、「白隠の客」に着想を得た新しい論考を発表し、3年目に香港の国際会議でも発表して、国内外の様々な研究者と意見交換をするとともに、論文の出版作業に結びつけることができた。

国外では特に、イタリア、パドヴァ大学の研究者らと綿密な打ち合わせを重ね、出版計画等を見直してきた。また、平25年夏に、ドイツ・ヒルデスハイム大学哲学部において、「型の哲学」と題した集中講義を行ない、エルバ フェルト教授らや学生たちと日本哲学や美学に関する議論を深めることができた。このように、著作のイタリア語への翻訳を継続し、イタリアをはじめとしたヨーロッパに向けて研究成果を発信してきた。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

Enrico Fongaro, “L’ospite di Hakuin – Eternità e fantasmi nelle prime opere di Nishida Kitarō”(「白隠の客-初期西田幾多郎における永遠と幽霊」), *Art History*, 査読無, No.36, 2015, pp.9-22.

Enrico Fongaro , “Nulla e tempo – L’esperienza dell’«ora eterno» in *Uno studio sul bene* di Nishida Kitarō” , (「無と時間—西田幾多郎の『善の研究』における「永久の今」の体験」), *Art History* , 査読無 , No.35 , 2014 , pp.29-43.

[学会発表](計8件)

Enrico Fongaro , “Tradurre ‘tradurre’: sull’ambiguità della traduzione dal giapponese all’italiano” (「翻訳する」を翻訳する—日本語からイタリア語への翻訳の曖昧さについて) , シンポジウム「Pensare tra le lingue – 言葉と言葉の間で考える」, パドヴァ大学(イタリア・パドヴァ) , 2016年3月8日(招待講演).

エンリコ・フォンガロ , 「現代イタリア美学における西田幾多郎—インターカルチャー的出会いの一例としての西田とモランディ」, 平成27年度第5回美学会東部例会 , 東北大学(宮城県・仙台) , 2016年3月5日(招待講演) .

Enrico Fongaro , “Sahō as a method? Some reflections on ‘Japan/Nippon as method’” , 国際シンポジウム”How to learn? Japan/Nippon as object, Japan/Nippon as method” , フィレンツェ大学(イタリア・フィレンツェ) , 2015年10月30日(招待講演) .

Enrico Fongaro , “The Hakuin’s ‘guest’: Platonism and Ghosts in the first works of Nishida Kitarō” , International Conference on Nishida Kitarō , 香港中文大学(香港・中国) , 2015年5月4日(招待講演) .

Enrico Fongaro , “Translation as transformation and creation: about the ambiguity of Beauty” , Social Sciences and Cultural Translation , HekkSAGOn University Consortium , 東北大学(宮城県・仙台) , 2015年4月17日(招待講演) .

エンリコ・フォンガロ , 「西田の時間論と白隠の「客」」 , 国際研究集会「比較思想から見た日本仏教」, 国際日本文化研究センター(京都府・京都) , 2015年2月21日(招待講演) .

Enrico Fongaro . Bodily Experience of an Eternal Now: The fundamental role of the body in the philosophy of Nishida Kitaro (and its relation to some Japanese traditional arts), Roma-Sendai-Leiden 2014 workshop “Viewing the Body: Japanese and European approaches to concepts of the corporeal” , ライデン大学(オランダ・ライデン) , 2014年3月24日(招待講演) .

エンリコ・フォンガロ , 「イタリアにおけるショーペンハウアーの需要の一面—カルロ・ミケルシュテッターの思想」, 日本ショーペンハウアー協会第26回全国大会 , 立正大学(東京都・東京) , 2013年11月30日(招待講演) .

[図書](計4件)

Enrico Fongaro , Marcello Ghilardi , “Il pensiero interculturale di Nishida Kitarō” (「西田幾多郎のインターカルチュラル思想」) , in Giuseppe Cagnetti (eds.) , *Con un altro sguardo – Piccola introduzione alla filosofia interculturale* (ジュゼッペ・コニエッティ『違う視点から—インターカルチュラル哲学の小入門』) , Donzelli 社 , 2015 , pp.138-149.

エンリコ・フォンガロ , 「文化の翻訳可能性をめぐって—イタリアの芸術と言語」, 『文化理解のキーワード』, 東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会編 , 東北大学出版社 , 2015 , pp.107-138.

エンリコ・フォンガロ , 「西田の時間論と白隠の「客」」 , 『比較思想から見た日本仏教』 , 山喜房佛書林 , 2015 , pp.200-221.

Enrico Fongaro (eds. and tr.) , Nishida Kitarō ,

*Problemi fondamentali della filosofia -
Conferenze per la Società Filosofica di
Shinano*, (西田幾多郎の『哲学の基礎問
題—信濃哲学会のための講演』), Marsilio
社, 2014, 全 225 頁.

〔産業財産権〕
出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者
フォンガロ エンリコ (Enrico
FONGARO) 東北大学・大学院文学研究
科・准教授
研究者番号：90457119

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし

以上